



凌和電子株式会社  
環境・安全報告書  
Environmental and Safety Report

2022

# CONTENTS

—目次—

1. 編集方針／報告対象範囲	1
2. トップメッセージ	2
3. 基本理念	3

## Environmental

4. 環境マネジメントシステム	4
5. 2021年度環境目標及び活動実績	5
6. 環境配慮型製品の提供	6
7. 地球温暖化ガスの排出削減 地球温暖化ガスの排出削減推移 個別のエネルギー使用の内訳	7
8. その他の環境負荷低減活動 省資源活動、廃棄物の排出削減	8
9. 環境教育	9
10. 環境監査	10
11. 環境リスクマネジメント	11
12. 環境コミュニケーション	12
13. 地域貢献・工場独自の活動	13-14

## Safety

14. 安全衛生管理	15-16
15. 会社概要	17
16. 環境負荷マスマランス	18

### 編集方針

凌和電子(株)は、環境マネジメントシステム(EMS)を導入した2006年以来、当社の環境活動をステークホルダーの皆様にご紹介する目的で毎年環境報告書を発行して参りました。

今回は17年目となり、環境目標に掲げた活動や安全衛生活動、BCP、また社会貢献活動についても併せて紹介しています。

内容は、中期計画に基づき当社の重点目標とした「環境配慮型製品の提供」及び「地球温暖化ガスの削減」「工場独自活動」等の活動と併せ、地域社会との共生として社会貢献活動や行政施策への関わりも含めてご紹介しております。

本報告書は、環境省「環境報告ガイドライン」を参考としています。また、弊社ホームページからご覧いただけます。

### 報告対象範囲

●報告対象期間  
2021年7月1日～2022年6月30日  
(2021年度)

●報告対象  
凌和電子株式会社  
〔 本社、本社工場、元町工場、  
山形工場、一関システムセンター 〕



# 2 トップメッセージ

## 極める心 やり抜く力

目標達成のため  
更なる高みを目指す



環境・安全報告書2022年版を発行するにあたり一言ご挨拶申し上げます。

当社は今年、創立50年という大きな区切りの年を迎えました。ここまで共に歩んでいただいたステークホルダーの皆様へ深く感謝申し上げます。

現在、世界では3年にもわたる新型コロナウイルス感染の状況の中、世界的分業体制がスタンダードになった弱点を突かれた形となり、中国や東南アジアのロックダウンによるサプライチェーン寸断で経済は大きな苦難を受けました。もちろんその状況は現在も影響していますが、今年2月に勃発したロシアのウクライナ侵攻で更に悪化しており、物価も急激に上昇、世界的インフレを招いています。

そのような中、製造業は鉄鋼等の原材料の高騰や半導体等電子部品の入手難などで事業の停滞、縮小を余儀なくされています。当社も同様で、部材や部品が予定通り揃わず、代替部品の選定や設計変更などを実施しながらお客様へのご希望に応える努力を重ねております。

一方環境問題に目を向けると、地球温暖化やアフターコロナを見据え、国連は17の目標(Goal)からなる持続可能な開発目標(SDGs)を定め、新しい価値創造と持続可能な社会を実現することを求めています。当社も今後、これまでの50年間に蓄えた技術とノウハウを礎とし、SDGsの精神に沿った生産活動を展開していく必要があると考えております。

今年7月、新たに策定した第3次中期経営方針ではこのSDGsの精神を網羅し、決して低くないそれらの開発目標(Goal)にチャレンジしてまいります。

本報告書は当社の地球環境保全や安全衛生への取り組み、2021年度の活動実績をまとめたものです。これらの活動はSDGsに通じる部分が多分に含まれるため、関連性も含めて併記しております。当社はこれからも社会的責任を果たし、持続可能な社会の実現に向け取り組んでまいります。ステークホルダーの皆様には引き続き、ご理解、ご支援を賜りますようお願いいたします。

2022年10月1日

凌和電子株式会社 代表取締役社長

安藤仁司

# 3 基本理念

## ●基本理念

当社は、創業以来「創造と奉仕の精神」を企業理念に掲げ、日々の研鑽に努めることによって社会に貢献することをお約束しています。これに基づき経営品質方針及び環境方針を定め、具体的活動に展開しています。なお、2022年7月から新たな中期経営方針(5年毎)を定め展開を始めました。

## 企業理念

凌和電子株式会社は  
「創造と奉仕の精神」をモットーに  
日々、技術の研鑽に努め  
より良い技術を創造して市場に提案しつづけることで  
社会に奉仕します。

2009年1月1日  
凌和電子株式会社  
社長 安藤仁司

## 経営品質方針

### 基本理念

凌和電子株式会社は、企業理念を経営のよりどころとし、常に地域社会への貢献と顧客満足の追求を第一に、新しい時代に即した健全な企業活動(経営)を推進していきます。

### 行動指針

凌和電子株式会社は、基本理念のもと、以下の行動指針を定め展開していきます。

1. 規律ある社風のもと、優れた人材を育成し、着実な発展を遂げる組織を作ります。
2. 新たな知識や技術を積極的に取り入れ、顧客ニーズを捉えた満足度の高い製品、サービスを提供し続けます。
3. 改善の眼と挑戦する気概を忘れず、日々責任ある確かな業務と安全で効率よい生産活動に努めます。
4. 当社に関わるすべての人々と和を保ち信頼を重んじ、良好な関係を築きます。
5. 顧客要求事項、法令などに適合する製品提供のため品質マネジメントシステムを継続的に見直し、経営の体質強化を図ります。

## 環境方針

### 基本理念

凌和電子株式会社は、「地球環境の保護・保全」を重要な経営課題の一つと位置づけ、常に環境を意識したものづくりとサービスの提供を行うことで、環境にやさしい、環境と調和がとれた企業活動を継続・推進していきます。

### 行動指針

凌和電子株式会社は、企業活動の主体である「計測」と「制御」を特徴とする機械器具の開発、設計、製造、販売を通じて、以下の行動指針に基づき環境管理活動を推進し、地球環境との調和を目指します。

1. 製品の開発、設計、製造、販売、廃棄までの各領域において、省エネルギー、省資源、廃棄物削減等により環境負荷の低減を進めると共に、環境にやさしいグリーン調達並びに環境に配慮した製品・サービスの提供に努めます。
2. 継続的に環境マネジメントシステムの改善を行い、環境汚染の予防に努めます。
3. 当社の環境側面に関して、環境に関連する法令、条例及び当社が同意したその他の要求事項を遵守します。
4. 本方針に基づき環境管理活動を展開するにあたり、環境目的、環境目標を設定し、計画に沿った活動を展開し、併せて定期的な見直しを行います。
5. 本方針を、当社で働く人はもとより当社の企業活動に協力している方すべてに周知するとともに、社会の方々にも開示します。

## 中期経営方針

### スローガン

極める心  
やり抜く力

～目標達成のため更なる高みを目指す～

### 1.意欲と活気ある職場作り

～はつらつ笑顔あふれるいきいき職場～

- ◆人的リソース配置の適正化
- ◆能力開発による多能工化推進
- ◆女性の積極登用と雇用形態の多様化

### 2.責任ある事業活動、生産活動

～活動目標必達意識、意欲の醸成～

- ◆パートナーシップによる効率的な生産活動
- ◆営業情報×生産情報の共有化で連携強化
- ◆PDCA回転による高い業務品質の追求

### 3.社会が求める生産活動

～持続可能な社会作りに寄与する

事業活動～

- ◆環境にやさしいものづくり推進
- ◆市場動向、ニーズにフィットした技術開発
- ◆先見性ある新分野への積極アプローチ

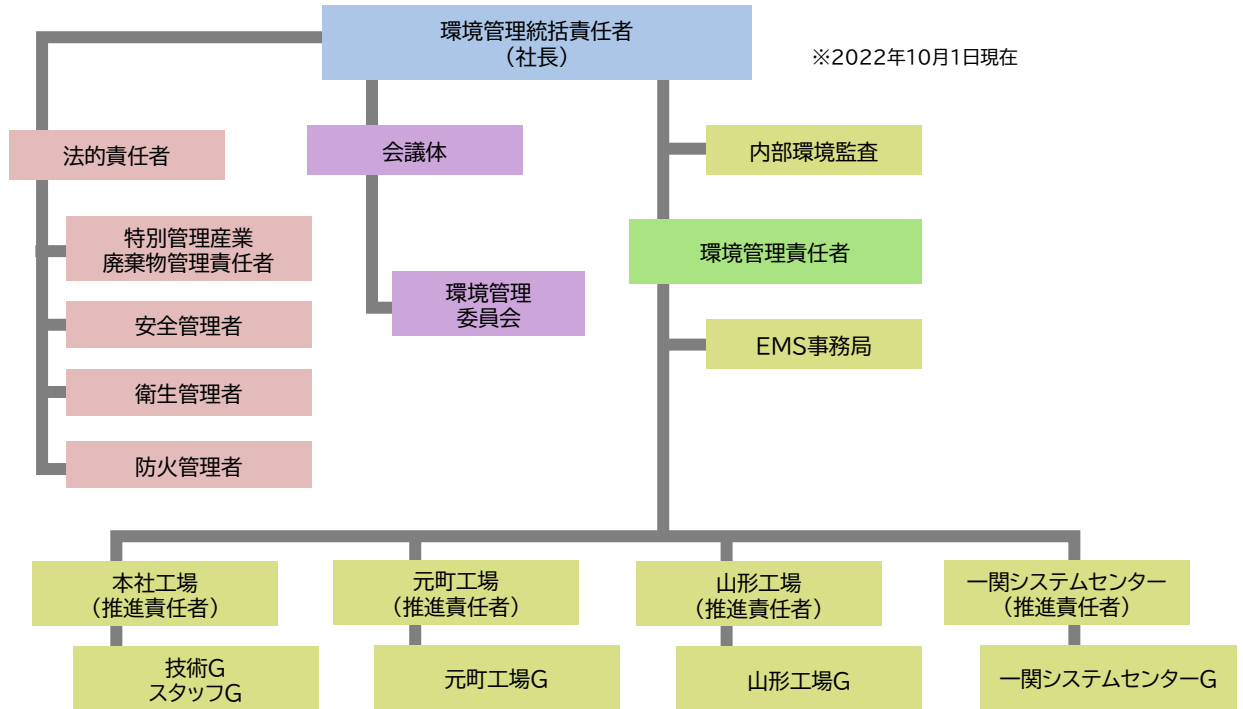
### 4.その他各部門の独自施策



# 4 環境マネジメントシステム

当社の環境管理体制は、2009年1月から社長が環境管理統括責任者となり、活動を牽引しています。各工場には推進責任者を置き、活動の取りまとめを行っています。

## ●環境管理体制



## ●持続可能な開発目標(SDGs)

2015年、国連において「持続可能な開発目標(SDGs)」が採択されました。これは、2030年に向けた持続可能な開発に関する17の目標と169のターゲットからなり、全世界が取り組むことによって、より良い国際社会の実現を目指すものです。当社も社会の一員として、SDGsを意識しながらCSR活動に取り組んでいきます。

### SUSTAINABLE DEVELOPMENT GOALS



## ●ISO14001(2015)認証維持

2021年10月にISO2015年版の維持審査を受け、認証維持となりました。

### 適用範囲:

- ・本社、本社工場(宮城県仙台市若林区南材木町48)
- ・元町工場(宮城県仙台市若林区六丁の目元町9-2)
- ・山形工場(山形県山形市高原町1483-1)
- ・一関SC(岩手県一関市東台14番地43 サンリツ倉庫4階)

### 認証登録機関:

Bureau Veritas Japan.co.,Ltd.

### 認証登録番号:

4564350



# 5

# 2021年度環境目標及び環境実績

当社は、中期計画に基づいた環境マネジメントプログラムを策定しています。活動には、改善を目指す“改善活動”と社員に定着した“維持活動”の2種類があり、各項目を分けています。これらの活動はSDGs17の目標にも大きく関わりがあるものです。その繋がりを社員一人一人が意識することで、自らの活動が目標達成に貢献している自覚を持ち、取り組みを進めています。

## ●2021年度活動実績(報告範囲:本社、本社工場、元町工場、山形工場、一関SC)

中期計画に基づき、全社目標として改善項目2項目、維持項目5項目を掲げています。2021年度は中期計画の最終年度となり、結果として各工場とも目標達成、または指標値以内となりました。CO2削減は当初の計画から削減率を増やし目標達成が出来た半面、努力目標としていたRoHS対応については件数が減少しました。これは当社の仕事の内容が変化してきていることが要因の一つとなっています。

評価基準 ◎:中期計画をクリア ○:計画対比100%以上達成 △:90%以上達成 ×:90%未満  
 実績算出 実績値(%):2021年度計画対比/[ ]は同原単位比(人員ベース)

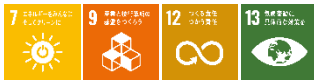
No.	項目	関連するSDGs項目	全社目的・目標		全社活動結果		関連ページ
			中期計画 2021年度	年度計画 2021年度	実績 (計画対比)	評価	
1	環境配慮型製品の提供		全製品環境配慮型化の推進継続	新規製品アセスメント100% 環境配慮型製品登録80%以上 ※自主的RoHS 14件 ※RoHS10対応3件	アセスメント100% 登録100% ※自主的RoHS 7件 ※RoHS10 0件	○	P.6
2	地球温暖化ガスの排出削減		5か年(12~16年)平均CO2排出実績比△5%以下	5か年(12~16年)平均CO2排出実績比△6%以下	△12.8% [△6.8%]	◎	P.7
3	廃棄物の排出削減(一般廃棄物)		2017年度指標維持継続	5か年(12~16年)平均実績値以下	△15.6% [△5.1%]	◎	P.8
	廃棄物の排出削減(産業廃棄物)		ゼロエミッション維持継続	再資源化率95%	全工場:100%	◎	P.8
4	紙資源の削減(購入量)		2017年度指標維持継続	5か年(12~16年)平均実績値以下	△46.8% [△39.7%]	◎	P.8
	節水活動の推進(水使用量)				△19.6% [△6.6%]	◎	P.8
5	環境リスクの低減		環境コンプライアンスの拡大強化	緊急事態対応訓練の実施	各工場訓練実施	◎	P.11
6	ワイ用品のグリーン調達(調達率)		100%継続	100%継続	100%	◎	-
7	環境コミュニケーション		環境安全報告書発行	環境安全報告書発行 環境ニュース発行	環境安全報告書発行 環境ニュース 12回発行	◎	P.12
			エコ生活推進	情報提供(原則隔月)	環境ニュース特集号 7回発行	◎	P.12
			地域・行政への協力	地域・行政への協力3件以上	・Fun to Share参加登録 ・クルビズ、ウォルビズ運動参加 ・山形まるごとCOOL CHOICE事業所登録 ・仙台市まち美化サポーター更新・活動 ・エコにこゴールドマイスター認定・更新 他	◎	P.12
			工場独自活動の強化(4件以上/工場)	工場独自活動の強化(部署毎+社会貢献)	全工場で実施	◎	P.13~

※No.1、2は改善活動 No.3、4、5、6、7は維持活動  
 ※No.1の「自主的RoHS」とは、客先指定がなくとも自主的にRoHS対応とした製品のこと  
 ※工場独自の活動は改善活動とし、P.13以降にご紹介しています  
 維持活動の管理は指標値を基準として10%増までは管理内とする

# 6

# 環境配慮型製品の提供

関連するSDGs項目

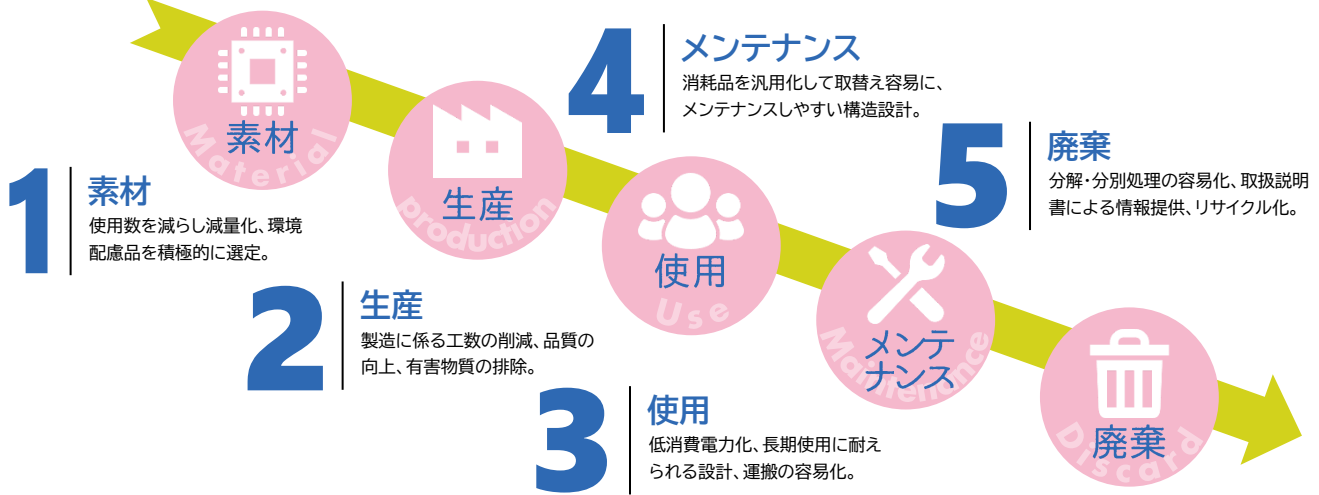


当社では環境へ配慮した製品を創出することで、お客様や社会全体への環境改善への貢献を目指しています。当社は一品一様のものづくりを主としていますが、製品アセスメント評価を行っています。ライフサイクルの視点で環境への配慮が認められたものについては「環境配慮型製品」として登録する仕組みです。



## 製品アセスメント5つのポイント

当社は環境配慮型製品を提供するために、新規設計製品はアセスメント評価を行っています。“ライフサイクルの視点”を考慮するための、5つのポイントと併せて現場の声をご紹介します



## 凌和電子の環境配慮製品事例

### 基板移載装置

基板の成膜装置の前後工程のハンドリングをする設備。

#### 特徴

- ・金属リサイクル可能
- ・標準的工具で分解可能
- ・キャスター、フックにより運搬の容易化
- ・メンテナンス用保守部品の情報充実化



### 蓄電用基板

リチウムイオンバッテリーへの充放電制御基板。

#### 特徴

- ・RoHS(6物質)対応製品
- ・標準的工具で分解可能
- ・エンドユーザーでの蓄電池使用を可能とし、省エネ化へ寄与。



## VOICE

### 大学との連携でイノベーションを

当社では大学と連携した研究開発を行っています。これはSDGsのゴール9「産業と技術革新の基盤をつくろう」にも深く関わる部分でもあり、専門的な技術でゴール達成への貢献に努めています。大学の研究ということで、“狭く深く”な内容にはなりますが、これらの技術を

環境の視点から利用の拡大ができないか等、検討が進められています。発想を転換することで思いもよらないところからイノベーションは生まれます。その足掛かりの一旦を担えるよう、当社も技術力と発想力で協力していくつもりです。



# 7

# 地球温暖化ガスの排出削減

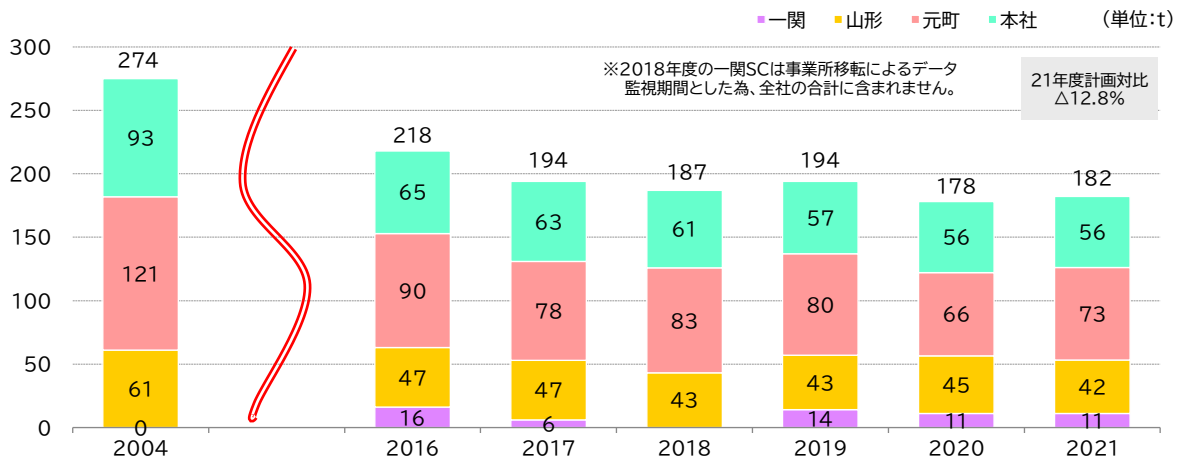
関連するSDGs項目



当社は、事業活動によって生じるあらゆる環境負荷の低減に努めています。中でも地球温暖化ガスの削減は世界の課題であり、当社でも重点項目と位置付けています。2021年度の二酸化炭素の排出量は182tで、計画対比で12.8%の削減となりました。コロナ禍でのスタイルが定着し、車移動が減ったことが見て取れます。



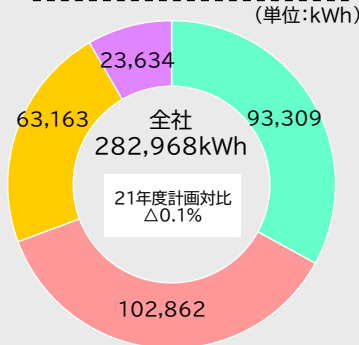
## 地球温暖化ガスの排出削減推移



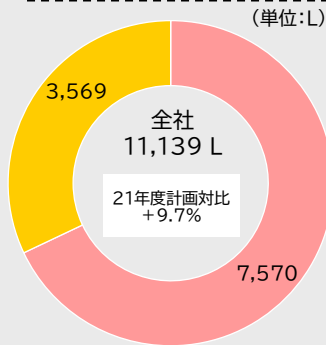
## 個別のエネルギー使用の内訳

地球温暖化ガスの内訳としては、計画対比で、電気使用量0.1%減、灯油使用量9.7%増、ガソリン使用量38.3%減となりました。ガソリンはコロナ対策によるWeb会議が定着したことにより削減状態が保たれています。灯油は冬の暖房のみの使用で、気候による影響を受けています。

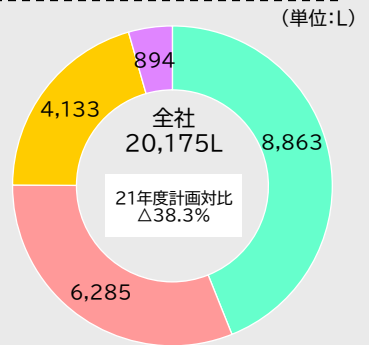
### 電気使用量の削減



### 灯油使用量の削減

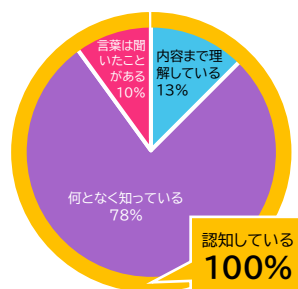


### ガソリン使用量の削減

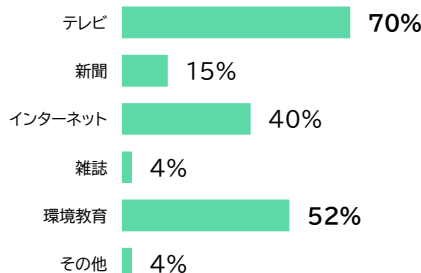


持続可能な開発目標(SDGs)が世界の課題となっています。当社でもISO活動の中で取り組んでおり、全社員への意識調査を昨年に続き実施しました。認知度は昨年の88%から100%となり、社内での教育が関心や理解の向上に繋がりました。

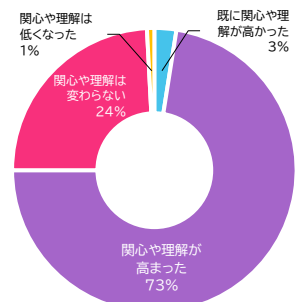
Q1. あなたはSDGsについてどの程度知っていますか？



Q2. あなたはSDGsのことを何で知りましたか？ (複数選択可)



Q3. 1年前と比較して企業のSDGsの取り組みに対する関心や理解が高まりましたか？





# 8

# その他の環境負荷低減活動

関連するSDGs項目



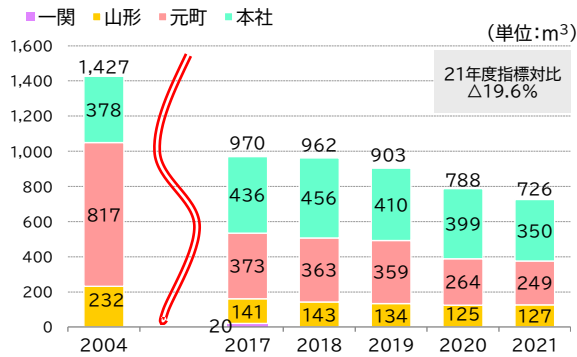
当社では地球温暖化ガスの低減の他、省資源活動と廃棄物の排出削減活動を行っています。これらの活動はすでに社員へ定着したため、維持活動としており、削減状態の維持に努めています。



## 省資源活動

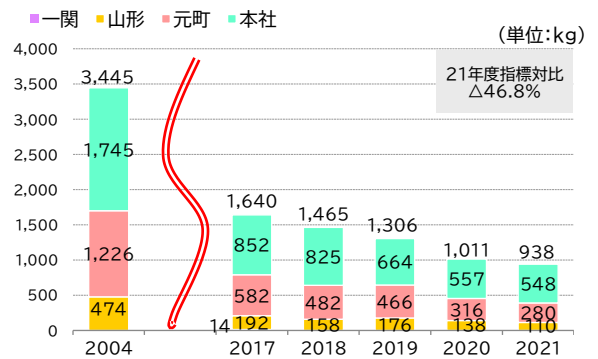
### 節水活動の推進

2021年度の水道使用量は726m<sup>3</sup>で、指標対比△19.6%となりました。水は生活系での使用しかないので、削減の背景には節水の徹底や社員数の減少が考えられます。



### 紙資源の削減

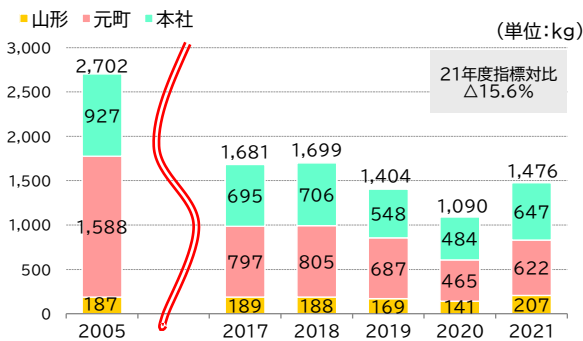
2021年度のコピー用紙等の紙購入量は938kgであり、指標対比46.8%の削減となりました。コロナ禍でWeb利用の普及に伴い、電子化も大きく進んだことが削減につながりました。



## 廃棄物の排出削減

### 一般廃棄物

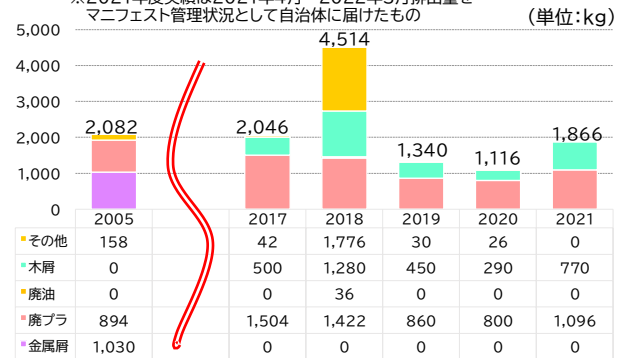
2021年度の一般廃棄物排出量は1,476kgとなり、指標対比15.6%減となりました。売上や生産状況に比例して増減はするものの、削減状態は維持されています。



### 産業廃棄物

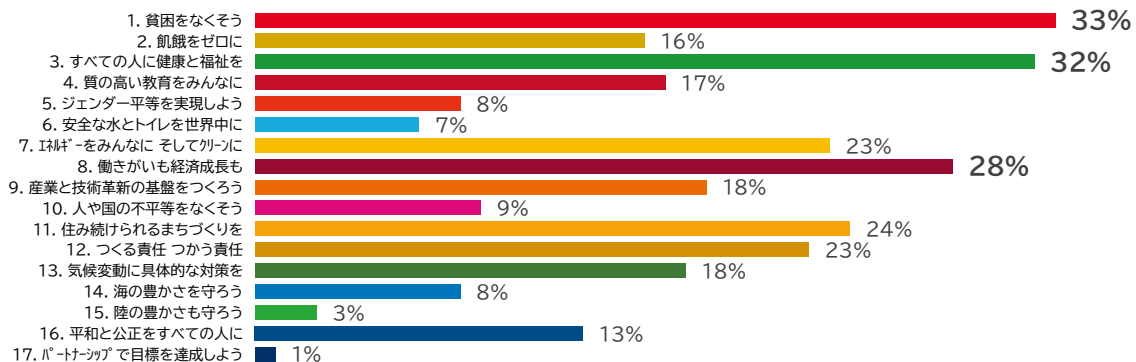
2021年度の産業廃棄物の排出量は1,866kgでした。こちらも生産状況に比例しており、通常の排出量となりました。

※2021年度実績は2021年4月～2022年3月排出量をマニフェスト管理状況として自治体に届けたもの



昨年より内容の理解が深まり、関心も広がりました。社員一人一人が自分達に出来ることを考え、活動の幅を広げることを目指します。

### Q4. SDGsの具体的な目標 (ゴール) のうち、どの目標に関心がありますか? (3つまで)



# 9 環境教育

関連するSDGs項目



当社は、年度環境教育訓練計画のもと種々の内容の教育を行っています。新型コロナウイルス流行後には、基本的に拠点間移動は行わず、Webを活用したリモート教育形式をとっており、社員へ定着しました。

## ●環境教育の実施

※下表において、各工場の対象者に対して一括して実施したものを「全社」としました

教育名	実施部門	実施日	受講者数
管理職・一般社員教育	品質管理課 (推進責任者)	全社 ~8月11日	117名
新入社員教育 (中途入社者教育含む)	品質管理課	本社 4月6日	1名 (中途入社者1名)
専門分野別教育			
内部環境監査員フォローアップ教育	品質管理課	全社 8月25日 2月 8日	13名 12名

2021年  
7月

### 階層別一般教育

毎年7月に全社員を対象とした教育を実施しています。コロナ対策として、集合教育を社内Webを活用した学習に切り替えて実施しています。

#### 2021年度環境・安全衛生研修資料

今年もコロナウイルス感染防止の観点から、集合教育は実施しません。各自自主勉強を実施していただき、理解度確認テストを受けてください。テストをもち、2021年度の環境教育を完了したこととなります。その進捗は各工場環境管理責任者の指示に従ってください。

- <環境教育資料>
  - ・本社用・・・PDF(4.1MB)
  - ・山形用・・・PDF(4.1MB)
  - ・山形用・・・PDF(4.1MB)
  - ・山形用・・・PDF(4.1MB)
- <安全衛生教育資料>
  - ・全社共通資料・・・PDF(3.4MB)
- <理解度確認テスト>
  - ・(印刷)

開示ページと教育資料



2022年  
4月

### 新入社員教育

2022年4月に新入社員1名を対象とした、品質・環境ISOの取り組みや活動について教育を行いました。今回は中途入社者も合同で教育をしています。



新入社員・中途採用者

2021年度  
2月・8月

### 内部環境監査員 フォローアップ教育

内部監査実施前に監査員へ向けたフォローアップ教育を実施しています。重点監査項目の伝達や、監査チームの力量向上を狙いとしています。



上期教育の様子(リモート含む)



下期教育の様子(リモート含む)

# 10 環境監査

当社は、3つの柱からなる監査体系をもって環境マネジメントシステムの維持・向上を図っています。

## ● 監査体系

監査の種類	監査の内容	実施
ISO14001(2015年版) 維持審査	外部審査機関による ISO14001(2015年版)更新審査	年1回
内部環境監査	当社認定監査員によるパフォーマンスを含む ISO14001適合監査(全職場)	年2回
環境管理責任者パトロール	環境管理責任者を隊長とする環境、品質、 安全衛生を含めての総合監査	年1回

2021年  
10月

## ISO14001(2015)維持審査

2021年10月に受審した維持審査では不適合はなく、認証維持しています。  
また、観察事項やアドバイスに関しても積極的に改善に結び付けるために対応しました。



トップインタビュー風景



現場審査(元町)

2021年度  
9月・2月

## 内部環境監査

2020年度から環境と品質合同の内部監査を、上期・  
下期で年2回実施しています。電子化の推進により、リ  
モート監査が活用でき、改善活動につなげています。



山形(上期)

2021年  
10月

## 環境管理責任者 巡回パトロール

2021年10月に行った環境管理責任者主催の  
パトロールでは全ての拠点を取り、環境・品質・安全の  
3つの観点から監査を実施しています。



元町

# 11

# 環境リスクマネジメント

関連するSDGs項目



当社では環境負荷の大きな施設・設備や化学物質の取り扱いはありませんがコンプライアンス意識を持ち、各種活動を行っています。

## ●緊急対応訓練

当社では、敷地外に環境汚染を及ぼす可能性がある要因として灯油の漏出事故を掲げています。今年度も給油の際の漏出事故を想定して緊急対応訓練を行いました。



元町



山形

## ●第一種特定製品の簡易点検実施

当社では、フロン排出抑制法に則り業務用エアコン等の第一種特定製品の「簡易点検」を実施しています。一定規模以上の製品については「定期点検」も実施しており、次回は2024年に予定しています。



簡易点検チェックシート、冷媒漏えい点検・整備記録簿



定期点検の様子

## ●法遵守及び苦情への対応

当社は、創立以来環境関連法の違反はありません。又、行政からの指導並びに地域住民からの苦情もありませんでした。

## ●当社に適用される環境法規制等

当社は、各工場において適用される環境法規制等についてリストを作成し、定期的に法規制遵守状況を確認しています。

### 環境法規制等一覧

大気汚染防止法 水質汚濁防止法 省エネ法 廃棄物処理法 毒物及び劇物取締法	家電リサイクル法 建設リサイクル法 労働安全衛生法 (鉛則、有機則) 消防法	フロン排出抑制法 自動車リサイクル法 宮城県公害防止条例 山形県環境保全条例 岩手県環境保全条例	仙台市公害防止条例 山形市環境条例 一関市環境条例 仙台市火災予防条例 山形市火災予防条例 一関市火災予防条例
---	--	--	--

(努力義務は除く)

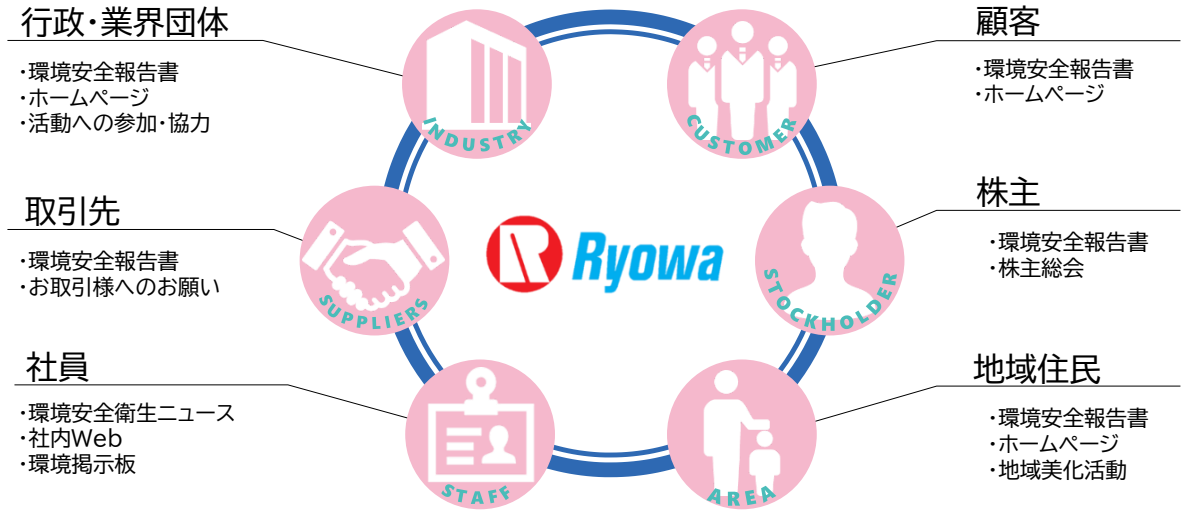
# 12 環境コミュニケーション

関連するSDGs項目



当社は、継続してステークホルダーの方々に環境に関わる情報を発信しています。今年度も社外に向けては凌和電子ホームページ及び環境・安全報告書での情報発信、また社内向けには社内イントラネット、環境安全衛生ニュースの発行を継続しています。

## ●当社のステークホルダー



## ●情報発信

### 環境・安全報告書

当社の環境と安全衛生活動を広く知ってもらうことを目的として環境・安全報告書を発行しています。今回は第17回目となります。

### 環境・安全衛生ニュース(エコ生活情報)

環境・安全衛生ニュースは、社員への情報提供として視覚的で分かりやすい方法として、月1回の発行を継続しています。

### ホームページ/社内イントラネット

当社ホームページに環境報告書や環境コミュニケーション情報を開示するとともに、社内向けにはイントラネットに環境に関わる帳票等を開示しています。

## ●地域、行政活動への参加、協力

### Fun to Shareへの参加

当社は低炭素社会の実現に向けた国民運動である気候変動キャンペーン「Fun to Share」に賛同し、低炭素社会の実現に取り組んでいます。

### エコにこゴールドマイスター

当社は仙台市のエコにこマイスター認定制度に登録し、より積極的に環境活動に取り組む企業として「ゴールドマイスター」の認定を受けました。

### 山形まるごとCOOL CHOICE事業所

山形工場では、COOL CHOICEに賛同する企業として、山形市の取り組みである「山形まるごとCOOL CHOICE事業所」に登録しています。



凌和電子ホームページ



環境ニュース



山形まるごとCOOL CHOICE事業所登録証



当社での賛同・登録キャンペーン



当社には4つの工場があり、それぞれ連携しながら仕事をしています。各工場に所属する部署単位で独自目標を設定し、仕事の内容に沿った活動を展開しています。社員が自ら目標とSDGsとの関連を意識し、レベルアップに向けて取り組んでいます。



## 本社・本社工場

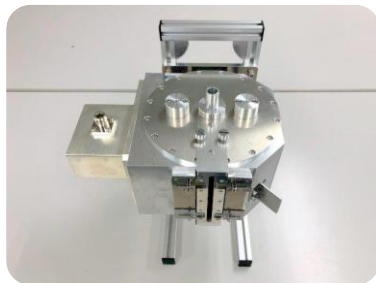
本社・本社工場では、購買や営業等のスタッフ業務担当の他、設計・開発等の技術部隊が所属しています。2021年度は購買部門で協力会社の環境への取り組み状況の調査や、長寿命やメンテナンス性を

を考慮した開発・設計を実施しています。その他仙台市へ登録中の「エコにこゴールドマイスター」や「まち美化活動」、「エコキャップ運動」等の社会貢献も継続しています。

### 開発製品のメンテナンス性向上と長寿命・省電力化



本社の研究開発を行う部署では、ハード・ソフトそれぞれの面から、メンテナンス性の向上と省電力化に取り組みました。



製品事例

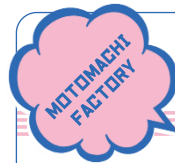
### 主要取引先、外注先へのグリーン購入アンケート



購買担当部署では、協力会社への環境に関わるアンケートを実施しました。環境調査等でご協力いただく場面もある為、今後の参考にさせていただきます。



アンケート例



## 元町工場

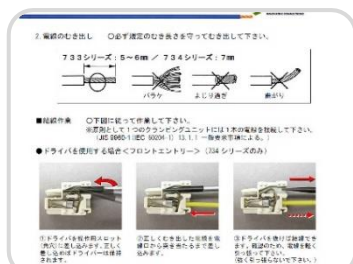
元町工場は仙台の工業団地内にある工場で、設計・製造両方の部隊が所属する工場です。2021年度は昨年に続き、設計や製作手法・メンテナンスの面から製品のライフサイクルに関わる改善を図りま

した。また、積極的に学生の見学やインターンも受け入れており、社会貢献として取り組んでいます。なお、元町工場については工業団地の移転に伴い、2023年中に移転を予定しております。

### 製作での製品ライフサイクル向上



元町の製造部隊では、製作手法や製作環境を工夫・改善し、製品とインフラのライフサイクル向上に取り組ましました。



活動資料

### 工場見学の受入



元町工場では学生の工場見学を受け入れています。高校生が装置や作業の様子等の製造現場を見学し、説明を行いました。



見学の様子



# 山形工場

山形工場は、設計・製造両方の部隊が所属しています。2021年度は製品の長寿命化のために、消耗品の交換時期を表示する機能を実装し、故障防止を図りました。また、設計・製造の距離が近いこと

もあり、製造から設計へのライフサイクルに関わるフィードバックを行い風通しを良くしています。山形工場でもインターンシップを受入れ、未来を担う学生への職業体験の場を提供しています。

## 消耗品の交換時期表示機能の実装



山形工場の設計部隊では、装置に消耗品の交換時期を設定できる機能を実装しました。長くご使用いただくための目安となります。



製品表示事例

## インターンシップの受入



山形工場では地元の高校生・短期大学生のインターンシップを毎年受け入れています。会社の空気を感じてもらおう良い機会となっています。



実習風景



# 一関システムセンター

一関システムセンターは設計部隊のみが所属する小規模な事業所です。製品の使用時のリスク削減

を重視した設計や、有害物質削減への調査・選定を実施しました。また、周辺清掃等も実施しています。

## 使用時リスク削減設計



安全性の確保・リスク削減を重視したエレキ設計を推進し、製品寿命への影響も併せて検討しました。



※イメージ画像

## 工場周辺清掃



社会貢献活動の一つとして、少ない人数ながらも周辺清掃を行っています。



活動の様子



## ●グリーン購入アンケート

本社購買管理課では、主な協力会社様にグリーン購入に関するアンケートを実施しました。環境活動へ積極的な会社様が多く、化学物質等の環境調査にも連携して対応出来ることが見える結果となりました。調達の面から環境配慮のモノづくりへ協力していきます。



購買管理課  
● 貝山 公弥 ●



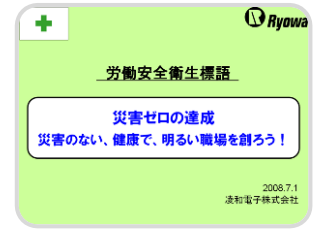
機械技術1課  
● 新谷 浩行 ●

## ●工場見学の受入

元町工場では学生の会社訪問や工場見学を積極的に受け入れています。モノづくりの生きた現場を見ることは、これから社会に出ていく学生さんにとって良い経験になるはず。SDGsにも教育の項目がある通り、大切な活動の一つと認識しています。

# 14 安全衛生管理

当社は、「災害ゼロの達成(災害のない、健康で、明るい職場を創ろう)」を標語とし、安全衛生計画に則った活動に取り組んでいます。労災ゼロを目指し、職場環境の改善や安全の為に安全衛生委員会を開催しています。また、事業継続計画(BCP)を策定し、社員への展開を図ると共に災害への備えを進めています。



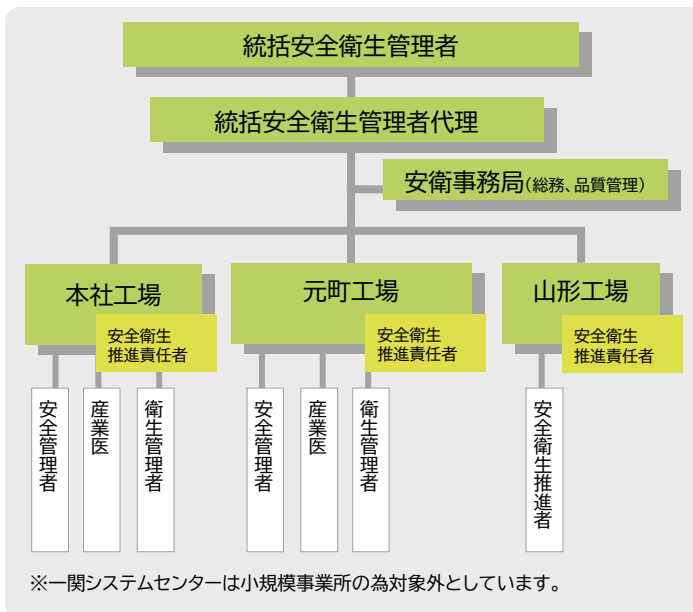
## ●安全衛生活動計画と実績

2021年度の活動計画に基づき活動の展開を図りました。全て計画通り実施しています。

重点実施項目	主な実施内容	実績評価
安全衛生管理体制の確立	組織体制見直し(管理組織・委員会組織)	○
	安全衛生計画の作成	○
	安全衛生委員会の開催	○
安全衛生意識の啓発・教育	安全衛生教育	○
	消防訓練の実施	○
健康維持・増進活動	健康診断の実施、受診の徹底	○
職場の作業環境整備	危険性・有害性の調査	○
	安全パトロールの実施	○

## ●安全衛生管理体制

社長を安全衛生管理統括責任者とし、工場毎に推進責任者及び法定管理者を定めています。



## ●安全衛生委員会

全社及び各工場の安全衛生委員会組織に基づき、全社は年1回、工場は毎月安全衛生委員会を開催しています。

工場の委員会では社員からヒヤリハットをはじめとした様々な意見を吸い上げ、改善を図ります。工場パトロールも隔月実施しています。

### 対応事例

#### 避難時の準備

避難訓練を実施する中で、緊急避難時にすぐ持ち出しが出来る社員リストやチェックリストがあると良いという意見があり、玄関付近に設置しました。停電や火災で電子データが利用できないことも考慮し、迅速に社員や来客者のチェックを行い、安否確認ができるように備えています。



本社



## ● 防災訓練

各工場ごとに火災や地震を想定した訓練を実施しています。各地で災害が多発する昨今、事業所の規模に関わらず災害リスクはあるため、一関SC(10名以下の事業所)でも他工場と同様に防災訓練を実施しています。

### ■ 本社



### ■ 元町



### ■ 山形



### ■ 一関



## ● 健康診断

当社は、毎年定期健康診断、生活習慣病予防診断、特殊健康診断(鉛、VDT)を実施しています。

2021年度の定期健康診断において未受診者はありませんでした。

工場	受診率
本社工場	100%
元町工場	100%
山形工場	100%
一関SC	100%

## ● 安全衛生教育

当社は、毎年1回全社員を対象に安全衛生教育を実施しています。



教育資料

## ● BCPの対応

当社では東日本大震災をきっかけに事業継続計画(BCP)を策定し、2013年度より運用を行っています。



防災カード

災害伝言ダイヤルは、訓練の機会を設け、使用方法を周知しています。また、全社員向けの防災カードには、避難場所や新型コロナへの対応についても記載してあります。

## ● 新型コロナ感染予防への対応



本社玄関

本社の受付では、入室前のアルコール消毒と体温の計測、来社情報の把握にご協力いただいております。対面の打合せにはアクリル板を設置し、感染防止に努めています。また、Web会議システム利用は定着化し継続運用しています。



## VOICE

### 担架の導入

元町工場では緊急時に備え、担架を導入しました。製造部門がある工場として、現場で働く社員も多数おります。有事の際には担架で速やかに救助が出来るように、避難訓練の中に取り入れ実践的な訓練も行っています。担架に人を乗せ、実際に運んでみると

想像していたよりも重く、人数を掛ける必要があることが分かりました。現実にはこれを使う機会が来ないことが一番ですが、社員の安全を守る為、避難・消火・通報の訓練と併せて人命救助の訓練も定期的実施していきます。



機械技術1課  
● 畠山 剛 ●

# 15 会社概要

**社名** 凌和電子株式会社

**創立** 昭和47年7月28日

**資本金** 7000万円

**役員** 代表取締役社長 安藤 仁司  
 取締役会長 安藤 正如  
 取締役 川田 智  
 取締役 木村 恒好  
 取締役 板垣 篤  
 監査役 大河原 茂紀  
 (2022年9月1日現在)

**事業内容** 計測/検査器設計製作  
 計測/検査システム設計製作  
 画像検査/処理システム設計製作  
 データ収集/管理システム設計製作  
 磁気特性計測システム設計製作  
 各種プリント基板設計製作  
 各種アセンブリ(試作、量産)  
 リペア&メンテナンス

**沿革** 1972(S47) 凌和電子株式会社設立(仙台市舟丁)  
 1989(H1) 仙台市鶴代町に東部工場開設  
 1999(H11) 山形市高原町に山形工場を建設  
 2000(H12) 仙台市若林区六丁の目元町に元町工場を開設  
 2001(H13) ISO9001:1994認証取得  
 2006(H18) ISO14001:2004認証取得  
 2006(H18) 東部工場を元町工場に併合  
 2009(H21) 株式会社サンユー技研(山形県長井市)をM&A  
 2012(H24) 一関市狐禅寺に一関システムセンター開設  
 2013(H25) 一関システムセンターISO9001、14001拡張審査受審(認証取得)  
 2017(H29) 一関市東台に一関システムセンター移転

## 所在地

### 一関システムセンター

岩手県一関市東台14番地43  
サンリツ倉庫4階



### 山形工場

山形市高原町1483番1号



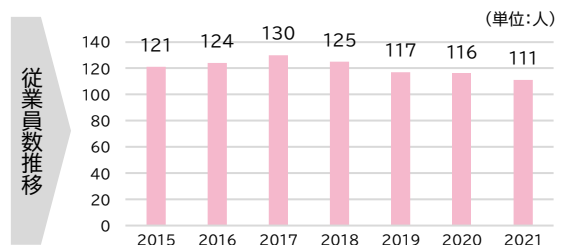
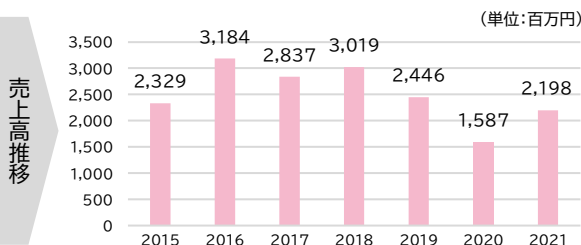
### 本社・本社工場

仙台市若林区南材木町48番地



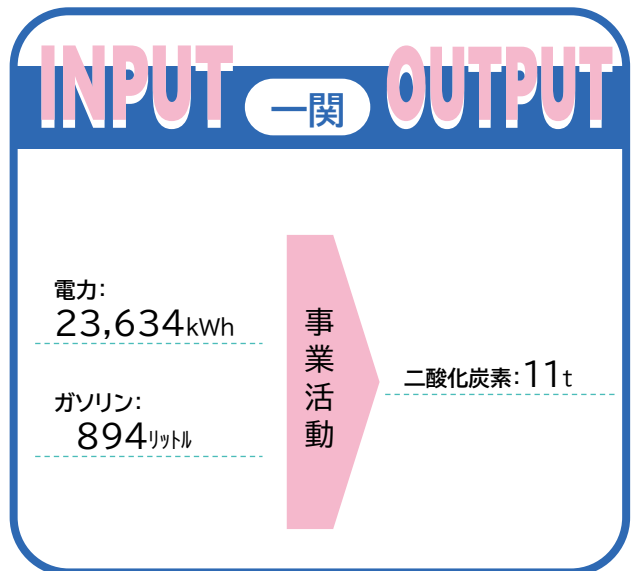
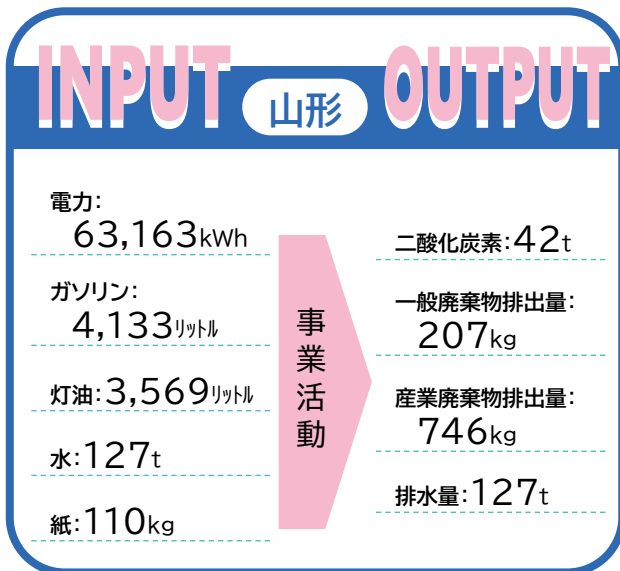
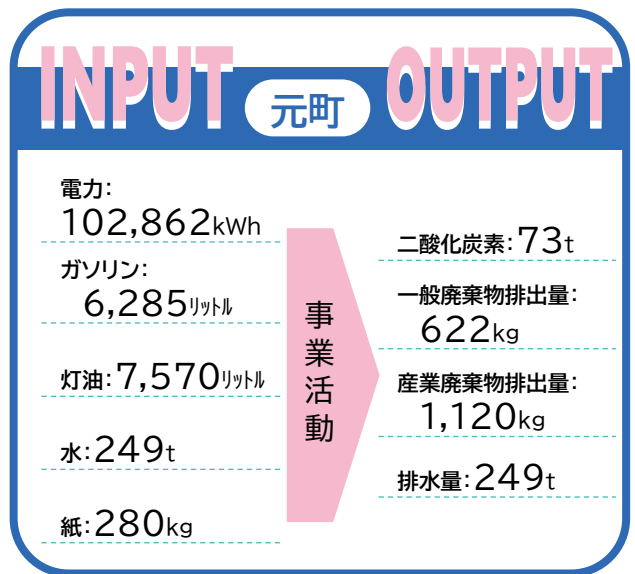
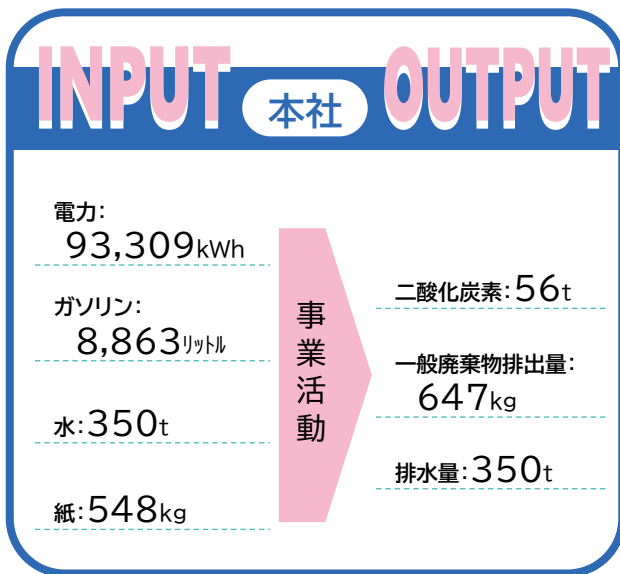
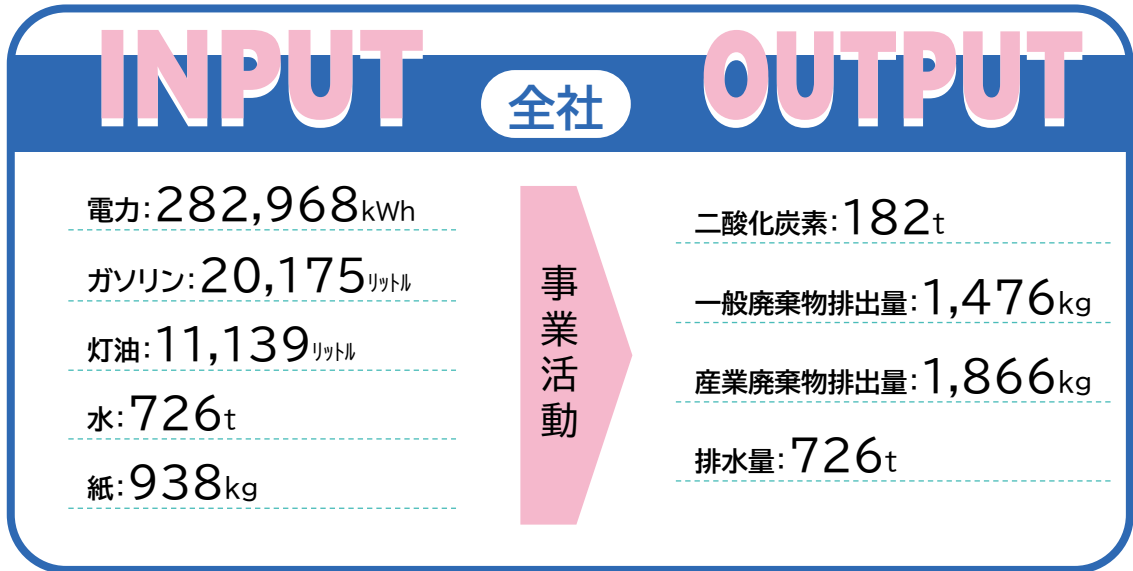
### 元町工場

仙台市若林区六丁の目元町9番2号



# 16

# 環境負荷マスマバランス





**凌和電子株式会社**

〒984-0805  
宮城県仙台市若林区南材木町48番地  
URL :<http://www.ryowa-electronics.co.jp/>

お問い合わせ:品質管理課(石垣・永峯)  
TEL:022-266-4188 FAX:022-268-1906

発行:2022年10月 次回発行予定:2023年10月